

ウ 実践事例「公民的分野」

第3学年 「人間の尊重と日本国憲法」 (13/14)

本時の目標

マスメディアやインターネットなどの活動を通して、憲法に記された権利の保護と人権侵害について、根拠を基に理由を付けて自分の考えを表現することができる。

本時の展開の概要

マスメディアの活動を通して、憲法に記された権利の保護と人権侵害について、「表現の自由」「プライバシーの権利」をめぐる対立が生じていることを理解させ、意思決定を迫る。

本時に取り上げる社会的な問題【社会的な問題のパターン】

プライバシーの権利と表現の自由の保障の間で対立が生じていること【解決すべき事柄】

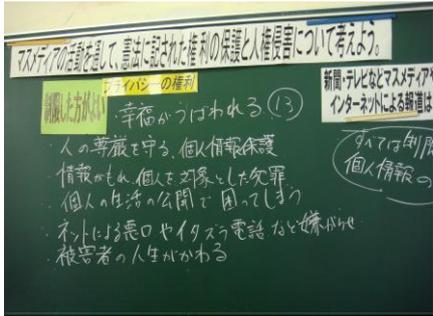
本時の様子

学 習 活 動	教師の指導・支援
<p>○前時までの学習を振り返るとともに、本時のめあてを確認する。</p> <p style="text-align: center;">〈グループ〉</p>	<p>○前時までの学習を、教科書やノート、ワークシートなどで振り返らせ、本時の学習のめあてについて、確認させた。</p>
<p>めあて マスメディアの活動を通して、憲法に記された権利の保護と人権侵害について考えよう。</p>	
<p>○「表現の自由」「プライバシーの権利」について、これまでの学習を振り返る。</p> <p style="text-align: center;">〈学級全体〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>社会的な問題【解決すべき事柄】 インターネットやマスメディアによる報道について、「プライバシーの権利」と「表現の自由」の保障の間で対立が生じていること</p> </div>	<p>○これまで学習した憲法で認められた権利の中でも、マスメディアに関わりの深い権利について、「プライバシーの権利」と「表現の自由」の保障の対立について確認させ、まとめた意見を振り返らせた。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div>
<p>学習問題Ⅱ インターネット、マスメディアによる報道は制限されるべきかどうか。</p>	
<p>○学習問題Ⅱについて、グループでまとめた意見を、その根拠となることとともに発表する</p> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div> <p>○学習問題Ⅱについて、他のグループの意見を聞いて再考する。(意思決定2)</p>	<p>○前時までの学習でまとめた意見を、理由とともに発表させ、討論をさせた。</p> <p>○他のグループの意見を聞いて、最終的に自分の意見をまとめさせた。</p>

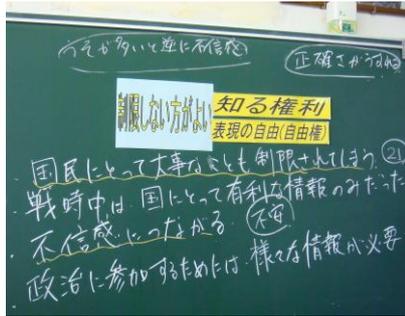


○権利の保護と人権侵害のバランスについて話し合い、まとめる。

〈学級全体〉



○日本国憲法が国民の権利を守る根拠となっていること、権利には対立するものもあり、その場合は「公共の福祉」により規制される権利があることを確認させた。



実践を終えて (成果と課題)

【成果】

○学習問題を基に討論型の学習を重ねていくことで、自分の考えを表現する方法が生徒に身に付いてきたのではないかと考える。現代社会では情報の取捨選択や様々な判断を迫られる場面も多く、そういった意味では今回のような授業を通して、自分の意見を述べ、またそれについての根拠を示すことができることは大切なスキルであると考え。また、話し合いを進めていく中で相手の主張の問題点や自分の主張の問題点にも気付き、さらに良い解決策を見出すことにもつながるのではないかと考え、「思考・判断・表現」の力を高めていくためには有効な手段であると考え。

【課題】

○意思決定場面において、多面的・多角的に考察し、公正に判断させるには、教師が資料を吟味して準備する必要がある。資料の提示や教師の進行によって、生徒の意思決定に対して中立を保つよう配慮する必要があると考える。

○あまりに意見の良し悪しや討論の勝ち負けにこだわってしまうと、逆に生徒の思考や判断を歪めてしまうことが危惧される。そこで、授業の中では、根拠を基に理由を示して自分の意見を論述することや相手の意見の根拠や理由を吟味することに意識を向けさせることが必要であると考え。

指導案へ